

『 青年は幻を見、老人は夢を見る 』

神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

使徒の働き 2章 17節

主の年2022年、明けましておめでとうございます。この二年間、世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされ、幾度となく緊急事態宣言が発令されるたびに、社会全体が閉塞感に包まれました。今、世間では「新しい生活様式」「withコロナ」と言われています。新しい年も依然、新型コロナウイルスの影響を注視しなくてはなりません。しかし今、社会全体がこのウイルスと共存する時代、新しい時代に突入しています。聖書では、既に教会は新しい時代に入っていると教えています。新しい時代には、誰もが主にあって希望を持ちビジョンを抱くことができるかと約束しています。今年私たちの教会は、今こそ新しい時代であることを覚え、皆でビジョンを共有したいと願います。

◆ 新しい時代

死から甦られたイエス様は天に帰られる直前、使徒たちに命じました。【エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。(中略)あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。】以降、使徒たちは【いつも心を一つにして祈って】主の約束を待ち望みました。そして五旬節(ペンテコステ)の日、主の約束どおり、使徒たちに聖霊が与えられます。すると、聖霊に満たされた使徒たちが様々な国のことばで福音を語り出したのです。この光景を見た人々は驚き当惑して嘲る者もいました。するとペテロは旧約聖書を引用し「預言者ヨエルの言葉が今、成就したのです」と語り始めたのが冒頭の御言葉です。ヨエルはB. C. 800年頃の預言者です。当時、唯一まことの神様を捨て、偶像礼拝に陥ったイスラエルに対して「もし悔い改めて真の神様に立ち返るならば、神様は地に雨を降らせ、作物に豊かな実りを与え祝福をもたらしてください。そして人々は希望をもってビジョンを抱くようになる」と預言したのです。ペテロは「今、ペンテコステの日、この御言葉が今成就した」のだと語りました。ペテロは敢えて二つの言葉を言い換えています。預言者ヨエルは「その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ」と語ったところを、「終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ」と語ります。またヨエルは「主の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる」と語りましたが、ペテロは「主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる」と語ります。ペテロは明らかにイエス様が再び来られる日を強調しています。それは“恐るべき日”と言うよりも“輝かしいその日”であると。つまりペテロはペンテコステのこの日、聖霊が与えられたことによって終わりの時代に入っている。そしてそれは主が私たちを迎えに再び来られる、その輝かしい日を待ち望む時代であり、すなわち今、新しい時代に入っていると強調しているわけです。

◆ 聖霊に満たされる教会

私たちの教会は「聖霊に満たされる教会」であることを共有しましょう。【v17 終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。】使徒の働き 2章の文脈上とても大切なことは、使徒たちに聖霊が与えられたこの時、使徒たちは“集まっていた”と云うことです。遡って見ましょう。【2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた】【1:15 そのころ、百二十人ほどの人々が一つになって集まっていた】【1:14 いつも心を一つにして祈っていた。】イエス様が天に帰られた後から、使徒たちが聖霊に満たされるペンテコステまでの間、

何度も強調するように記されていることは「キリスト者たちは一つに集まっていた」と云うことです。いつも一つに集まって主を礼拝し、祈りの交わりをしながら約束の聖霊を待ち望んでいました。私たち一人ひとりには既に聖霊が与えられています。ペテロはこの説教の最後に次のように教えています。【それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。(2:38,39)】別の箇所でも【聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。(Iコリ12:3)】と教えられている通りです。私たちの内には皆、聖霊なる神様が住んでくださっています。ですから私たちが一つに集まるとき、ペンテコステ以前のように聖霊を待ち望むというよりも、聖霊に満たされている教会(共同体、集まり)であるということを常に共有したいのです。皆で一つに集まって主を礼拝し、祈りの交わりを継続することにおいて私たちの教会が「聖霊に満たされる教会」であることを共有して参りましょう。

ワクチンが普及する以前のような厳しい状況では自粛も必要です。しかし状況が許される中では工夫しながら、集まって礼拝すること、集まって祈りの交わりを継続することに熱心でありたいと願います。共に集って主を礼拝し、祈る教会に主の霊が豊かに注がれています。

◆ 御言葉を宣べ伝える教会

私たちの教会は「御言葉を宣べ伝える教会」であることを共有しましょう。【v17 終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し】聖書が教える預言とは“預かる言葉＝預言”です。主から預かった言葉を語るという意味です。主なる神様は私たちに常に聖書を通して語りかけ、託してくださっています。教会は聖書を通して主の御言葉を受け、預かっているのです。それは私たちの内に御言葉を蓄えるだけでなく、預言するため、すなわち宣べ伝えるためなのです。使徒たちに聖霊が注がれたペンテコステの日、彼らは突然【他国の(異なる)いろいろなことばで話し始め】ました。それはなぜか？五旬節の祭りのため、各国各地方に散らばっていたユダヤ人たちがエルサレムに集まっていたからです。ヘブル語を使わない多くの人々にこの様にして主の御言葉(福音)が宣べ伝えられ、ここから宣教が拡大して行きました。

「あなたがたの息子や娘は預言し」と記されております。後に見ますが、幻を見るのは青年担当、夢を見るのが老人担当というような分担ではありません。重要な前提は「すべての人に主の霊が注がれている」と云うことです。つまり息子も娘も青年も老人も預言するのです。聖霊が注がれているすべてのキリスト者が主の御言葉を宣べ伝えるようになるのでありペンテコステの日それが成就したのです。依然、新型ウイルス変異株の蔓延が心配される今日この頃ではあります。それ故にこの新しい時代に、私たちの教会は主の御言葉を宣べ伝える様々なチャレンジに取り組む必要があるでしょう。様々な工夫や知恵が必要でしょう。ここで大切にしたいことは、聖霊に満たされているからこそ、主の霊が注がれているからこそ御言葉を宣べ伝えるようになるということです。義務的な使命感で頑張るのではなく、主の霊に満たされた礼拝と祈りの中から、生き生きとした福音宣教へと繋がって行くことを覚えたいと思うのです。

◆ ビジョンに生きる教会

私たちの教会は「ビジョンに生きる教会」であることを共有しましょう。【v17 神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る】ここで単語の大きな使い分けはありません。夢=dream、幻=visionであり、どちらも将来への希望です。私たちの教会も例に漏れず高齢化が進んでおります。私たちは老いを実感し始めると溜息を漏らします。つつい弱音も出てまいります。しかし。聖書は新しい時代には青年も老人もすべての人は希望を胸に“夢と幻”

ビジョンを描くと教えます。それは主の大いなる輝かしい日を待ち望んでいるからであります。教会の主であるキリストが再び来られるそのときに、私たちの救いは完成されます。花嫁なる教会は花婿なるキリストが来られる輝かしい日を待ち望んでいるのです。青年であれ老人であれ、キリスト者はみな希望を胸にビジョンを描くのです。聖書が教える“夢と幻”は願掛けのようにして描く物ではありません。主の霊が注がれ、聖霊に満たされる教会は、主が与えてくださる“夢と幻”ビジョンに生きるのです。儂い、無理かもしれないビジョンではなく、主なる神様が私たちに与えてくださる希望です。

今、新しい時代です。今年2022年、教会墓地取得のみならず、いのちの泉聖書教会の未来、希望について皆で祈り求め、語り合きましょう。閉塞感ではなく、希望に溢れる教会です。そして夢と幻を見る、描くだけに留まらず、その夢と幻、ビジョンに沿って生きる教会として歩んでまいりましょう。この御言葉は、主なる神様が私たちの教会に祝福を約束してくださっている御言葉であると信じたいと思います。主の御言葉に信頼して、希望を持って一年を始めて参りましょう。